

ピックアップ! 先端技術で新しい介護の形を模索

昨年11月にロボットのペッパー君がご利用者のレクリエーションに参加したいということで介護現場に現れた。まだ開発段階で利用者の反応は様々だったが、新鮮なインパクトを与えた。以前にも大学・研究機関の要請により、センサーマットによるご利用者の睡眠状態把握や転落予防の研究などを行っており、常に先端技術に関心をもち新しい介護の形を模索している。

資質向上のための取組

法人冊子「職員ころえ」が教育の第一歩

職員の行動基準を示した冊子「職員ころえ」を全職員に配布し、教育資料としている。

同冊子には法人の基本理念、社会人としてのルール、マナー、身だしなみ、入社から退社までのルール、チームワーク、コミュニケーション、5S、コスト意識、守秘義務などを含めた規範が示されており、メンタル教育とルールの周知を兼ねた教育資料として定着している。

研修・研究活動

資質向上の重要部分であり、研修機会を多く作り個々人の意識改革を促している。そして各種委員会を活発化し、内容の充実化を図っている。例えば、ターミナル委員会では看取り研修を受けることで次第に受け入れ姿勢が向上し、体験数が増加している。年1回の研究発表大会ではそれらの活動の成果を発表する場となっている。直近の大会では個別対応の排泄ケアの取組、利用者様の希望中心の外出レクの効果やデイ送迎中の事故防止の研究の成果が発表された。発表の中から優れたものを選び、全国老人保健施設大会に参加している。



労働環境・処遇改善のための取組

介護アシスタントの導入で人材不足対策に光明

人材不足を解消するために、「介護アシスタント」を導入した。専門技術を要する身体介助は行わず、ベッドメイキングや掃除など補助的な業務を担当している。勤務日数や時間は、職員が施設に合わせるのではなく、施設が本人の希望に合わせているのが特徴。介護アシスタントとしての定型業務は無く、職場で必要な仕事を考えてシフトを組んでおり、音楽演奏などの特技を生かす機会にもなっている。

介護職には自信の無い方も介護アシスタントであれば抵抗が少ないため、多くの求人応募がある。そして、介護アシスタントを通じて介護職に興味を持ち、専門の介護職を目指す例も出てきている。求人を出しても十分な応募が無い労働市場において、介護の仕事の裾野を広げる大きな効果があった。

様々な福利厚生を実行

有給休暇消化率100%を達成している。その他、法人内フィットネスクラブ、健康食レストランの職員割引、酸素カプセルボックスの設置、法人内保育園、病児保育室など組織力を生かした福利厚生が充実している。

健康意識の高い職員のニーズに対応した内容となっている。

